



Title	低温センター長挨拶 : 低温センターの役目と課題
Author(s)	田島, 節子
Citation	大阪大学低温センターだより. 2014, 162, p. 1-1
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/47006
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

低温センター長挨拶 —低温センターの役目と課題—

低温センター長 田島節子

ご挨拶が大変遅れましたが、昨年度より本学の低温センター長を拝命しております。

私自身のこれまでの低温センターとの関わりは、運営委員という役目もありましたが、もっぱら単なるユーザーとしての意識しかありませんでした。しかしながらこの任に就いて、改めて本センターの役目の重大さを認識している次第です。

寒剤を用いた実験研究は、本学の多くの理系研究室で実施されおり、ヘリウム液化装置は、言うまでもなく基本的なインフラ設備の一つです。必要なときに必要な量の寒剤が、容易に入手できることのありがたさは、供給が滞ったときに初めて実感できます。一般住宅における電気・ガス・水道もそうですが、「コックをひねればいつでも使える」という状態を「当たり前」に保つという種類の仕事は、他のどんな仕事とも違う価値があります。(その意味で私は、日本の電力会社やガス会社、水道局をとて尊敬しています。) 寒剤におけるこの「当たり前の状態」は、多くが低温センター職員の努力によって支えられていますが、実はユーザーの皆さんの努力にもかかっているのです。逆に、一人のユーザーの不注意な操作によって、事故が起きたり、ヘリウム回収率が下がったりして、他の全ユーザーに大きな迷惑がかかります。従って、低温センターの仕事は、低温センター職員とユーザーの皆さんとの共同作業と言えるかもしれません。どうか、低温センターの仕事が滞りなく進められますよう、よろしくご協力のほどお願いいたします。

さて、現在の低温センターの懸案事項は、①ヘリウムの確保と②ヘリウム液化装置の更新です。1年ほど前、世界的にヘリウム供給が不足し、日本国内でも入手困難な時期がありました。この希少資源の入手がいかにか政治的な状況に左右されるか、ということを感じた次第です。幸い現在は、少し状況が落ち着いているようですが、価格の上昇は避けられず、学内供給分についても近いうちに値上げを検討せざるをえません。どうかご理解のほどお願いいたします。

一方で、いくらお金を出しても買えない事態が若干の現実味を帯びて語られはじめたことにより、ヘリウムガス回収・液化といったリサイクルは以前にも増して重要となっています。大阪大学の液化装置は、購入から年月が経過し、更新すべき時期が来ています。センター職員が日々丁寧なメンテナンスを行い、老朽化した設備の寿命を少しでも長くする努力をしていますが、ある日突然“ご臨終”となる危険性があることは、(考えたくはありませんが) 考えておかねばなりません。国立大学法人化以降、研究の基本インフラに対する国の予算が減少の傾向にありますが、一日も早く更新できることを願っています。

ユーザーの皆さんには、是非素晴らしい研究をして、多くの成果を挙げていただきたく。低温センターは全力でそれを応援いたします。